

令和4年度 大学教育再生戦略推進費
「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」
申請書

代表校名 (連携校名)	宮崎大学 (東京慈恵会医科大学) 計 2 大学
事業名	地方と都市の地域特性を補完して地域枠と連動しながら拡がる 医師養成モデル事業 ~KANEHIROプログラム：病気を診ずして病人を診よ ~

事業の構想等

1. 事業の構想 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵A4横1枚)を末尾に添付すること。

(1) 全体構想

①事業の概要等

本事業は宮崎大学と、宮崎県高岡町出身の高木兼寛を学祖とする東京慈恵会医科大学の間で締結された大学間包括的連携協定を基盤に、令和4年度入学者選抜から恒久定員内で地域枠を15名増の40名に拡充した宮崎大学が代表校を、東京慈恵会医科大学が連携校を務める。新たに確立する「KANEHIROプログラム」では、地域医療や多職種連携に関する講座型科目を拡充し、実習型科目の診療参加型臨床実習に地域医療、救急医療、総合診療、感染症に重点をおく専門コースを新設する。地方と都市の異なる地域特性を補完する単位互換制の交換実習を実施し、オンデマンド教材やVR・シミュレーションによる領域横断的な教育も展開していく。地域枠と連動しながら、新たな時代の多様な医療ニーズに応え、診療にあたる地域を問わずに適切な医療を実践できる医師を養成し、地方が抱える医師不足や医師偏在の解消に資する教育モデルの確立を目指す。

②大学の教育理念・使命（ミッション）・人材養成目的との関係

代表校の宮崎大学は「世界を視野に、地域から始めよう」をスローガンに、地域に根ざす国立大学法人としてのミッションを担い、特色ある教育・研究・地域貢献、国際連携などの大学改革に取り組んでいる。医学部では、教育・研究・診療を通して地域社会や人類全体の健康と福祉の増進に寄与し、最新の幅広い知識と確かな技術を持ち、常に向上のための努力を惜しまない医師、研究者、教育者の育成に取り組んでいる。直近の改革では、令和4年度入学者選抜から地域枠をA/B/Cの3枠に再編し、恒久定員内で地域枠を15名増の40名に拡充したことに加え、全国の高等学校を対象に地域枠C「日本のひなた枠」（定員15名）を新設し、キャリア形成プログラムに則った医師の養成と宮崎県地域医療の充実に取り組んでいる。

連携校の東京慈恵会医科大学は宮崎県高岡町出身の高木兼寛によって創設され、**建学の精神『病気を診ずして病人を診よ』**を体現する医師を育てるべく「医学は学と術と道とより成る」を教育理念に掲げ、医師・看護師の育成、医学・看護学研究の振興、医療の実践を通して人類の健康と福祉に貢献することを使命に掲げている。高木兼寛が提唱した『病気を診ずして病人を診よ』の精神は「**医学的力量的のみならず、人間的力量をも兼備した医師の養成**」に向けた思いが凝縮されたもので、本事業で新たに確立する教育プログラム・コースの基本理念をなす。

③新規性・独創性

1. 宮崎大学と、宮崎県高岡町出身の高木兼寛を学祖とする東京慈恵会医科大学の間で締結された大学間包括的連携協定に基づいた独自の背景を有する。
2. 宮崎大学は、令和4年度入学者選抜から地域枠をA/B/Cの3枠に再編し、恒久定員内で地域枠を15名増の40名に拡充されたことに加え、全国の高等学校を対象に地域枠C「日本のひなた枠」（定員15名）を新設した。この改革にあわせ、地域枠と連動しながら新たに確立する「KANEHIROプログラム」は毎年、40名を数える地域枠新入生に適用されることから、プログラム履修者数は高いレベルが見込まれる。
3. 地域医療、救急医療、総合診療、感染症に重点をおいた6つの専門コースを新設し、地方の宮崎大学と都市部の東京慈恵会医科大学で異なる地域の構造や特性、医療ニーズを互いに補完し、単位互換制に基づいて学生を交換する診療参加型臨床実習の展開は、高い新規性と独創性を有する。
4. 宮崎大学と宮崎県児湯郡都農町の連携協定に基づく「長期滞在型地域包括ケア実践コース」は、3ヶ月間にわたり都農町に滞在し、都農町国民健康保険病院で地域包括ケアを学ぶ、先駆的な取り組みである。
5. 講座型科目、実習型科目を中心に、セミナー形式で実施する教育内容も含めたオンデマンド教材の共同製作／共同利用は、時間や場所に制約されず、繰り返し学習できる受講環境を整備する取り組みであり、ポストコロナ時代の医療人材育成に適応した新規性を有する。
6. 遠隔・オンラインで実施する「VR・シミュレーション実習」は、東京慈恵会医科大学が開発を担当し、宮崎大学や宮崎県内各地の臨床現場・教育現場とオンラインで結びながら、臨床現場に繋がる教育手法を導入する大学連携に基づく新たな取り組みとして高い新規性と独創性を有する。

④達成目標・アウトプット・アウトカム（評価指標）

（達成目標）

宮崎県は二次医療圏ごとの医師数の55.6%が宮崎東諸県医療圏に集中し、人口10万人当たりの医師数で全国平均の244.9人を上回っているのは宮崎東諸県医療圏の353.5人のみで、他の圏域は全国平均を下回っている（2014年統計）。宮崎県第7次医療計画（2018年～2024年3月）では、①若手医師の減少、②医師の地域的な偏在、③特定診療科の医師不足、④女性医師の就労環境及び医師の勤務負担、の4つが重点課題に上がり、これらの課題を解決する施策として「宮崎県内で卒後臨床研修を開始する医師数＝80名」を医師養成の数値目標に掲げている。宮崎大学医学部と宮崎県は多角的な連携を強化し、2021年度には宮崎県内で卒後臨床研修を開始する医師数「64名」を数えたが『80名』の目標達成には至っていない。

本事業では、地域枠と連動しながら「様々な地域の構造や特性を理解し、総合診療や救急医療、感染症をはじめとする新たな時代の多様な医療ニーズに応え、診療にあたる地域を問わずに適切な医療を実践できる医師の養成」に取り組む。令和20年（2038年）には宮崎県キャリア形成プログラム適用者延べ人数は「360名」、同プログラム修了者の延べ人数は「200名」を数える見込みで、宮崎県内の医師不足や第二次医療圏間の医師偏在の改善、解消も視野に社会的インパクトの創出を目指す。

（アウトプットと評価指標）

・教育プログラム・コース等の開設数と開設時期
プログラム開設数：1・・・「KANEHIROプログラム」

プログラム内のコース開設数：6コース□

- ①地域包括ケア実践コース
- ②長期滞在型地域包括ケア実践コース
- ③地域連携型救急診療コース
- ④都市型総合診療コース
- ⑤都市型感染症診療コース
- ⑥都市型救急診療コース

開設時期：令和4年10月

・本事業で構築した教育プログラム等を履修した学生数（うち地域枠学生数）

宮崎大学地域枠学生

令和4年度以前の入学生

「20～25名／入学年度」（内、地域枠入学生数＝20～25名／年）

令和4年度以降の入学生

「33～40名／入学年度」（内、地域枠入学生数＝33～40名／年）

東京慈恵会医科大学

地域枠学生「3～4名」（内、地域枠入学生数3～4名／年）

・本事業で構築した教育プログラムにおいて連携する実習受入機関の延べ数

大学病院：2病院＝宮崎大学附属病院、東京慈恵会医科大学附属病院（本院）

臨床実習協力施設：35～40施設（宮崎大学医学部における臨床実習施設）

・オンデマンド教材等の教育コンテンツの作成数

「地域医療」「救急医療」「総合診療」「感染症」を中心にオンデマンド教材を新規作成。

□ 数値目標：24コンテンツ／令和4～5年度（45～60分間／コンテンツ）

※令和6年度以降、16コンテンツ／年度の新規作成を計画

(アウトカムと評価指標)

・地域枠・地域医療を志す学生の増加

宮崎大学医学部地域枠(A/B/C)定員40名に対する入学希望者

令和5年～7年度平均「120名以上/年度」(定員の3倍以上)

内、全国の高等学校が対象の地域枠Cは「60名以上/年度」(定員の4倍以上)

令和8年～10年度平均「160名以上/年度」(定員の4倍以上)

内、全国の高等学校が対象の地域枠Cは「75名以上/年度」(定員の5倍以上)

宮崎県内の基幹型臨床研修病院で卒後臨床研修を開始する医師数

令和5年～7年度平均「70名以上/年度」

令和7年～10年度平均「80名以上/年度」

・教育プログラム・コース等を修了後の人材のキャリア

宮崎県キャリア形成プログラム適用者延べ人数

令和7年度「100名」

令和10年度「175名」

宮崎県キャリア形成プログラム修了者延べ人数

令和15年度「80名」

令和20年度「200名」

・事業成果の発信状況

1. 代表校、連携校のホームページで本事業の内容と成果を公開する。

2. 一般公開のシンポジウム、フォーラムを開催し、本事業の内容と成果を紹介する。

3. 日本医学教育学会をはじめ、医学教育に関する学会で本事業の内容と成果を報告する。

4. 「地域医療」「総合診療」「救急医療」「感染症」に関する学会を中心に、医学教育をテーマとするセッション、ワークショップにエントリーし、本事業の内容と成果を報告する。

5. 全国医学部長病院長会議のホームページ等で、本事業の内容や成果を紹介する。

(2) 教育プログラム・コース → 【様式2】

2. 事業の実現可能性

(1) 運営体制

①事業実施体制

1) 代表校を宮崎大学、連携校を東京慈恵会医科大学とし、**事業責任者**は代表校の宮崎大学医学部長が務めて事業を統括する。事業推進プロジェクトリーダー（兼・事業推進委員長）及び教育プログラム・コース責任者を宮崎大学医学部副学部長（教務担当）が務める。

2) 事業推進プロジェクトサブリーダー（兼・事業推進副委員長）及び教育プログラム・コース開発・編成担当コーディネーターとして、**代表校と連携校に各1名の教員**を配置する。

3) プログラムを構成する各コースの開発・編成を担当する**コースディレクター**として、**各コースに1名の教員**を配置する。

4) 本事業を推進し、必要な審議事項等を取り扱う「**事業推進委員会**」を組織し、必要な場合には委員以外（例：コースディレクター）にもオブザーバーとして参加を求める。

5) 事務取扱は代表校：宮崎大学医学部医療人育成課（事務補佐員2名を新規雇用）と連携校：東京慈恵会医科大学教育センター（事務補佐員1名を新規雇用）が所掌する。

6) 宮崎県との連携は宮崎県地域医療支援機構大学分室長が主導する。

7) 宮崎大学医学部と東京慈恵会医科大学は令和2年3月3日に大学間包括的連携協定締結後、令和3年度から**単位互換制度**に基づく学生交換実習を開始しており、**学生派遣・受入に関わる手続きや連絡体制**は既に整備されている。

②自己評価体制

本事業では、教育プログラム・コースを履修した学生の学績や卒業後の進路、地域包括ケア実践コースで学生を受け入れた実習施設を対象とするアンケート調査など、教育プログラム・コースの評価に資する多角的なデータの収集にあたる。得られたデータは「**宮崎大学医学部プログラム評価委員会**」（毎年度開催／**外部評価委員を含む**）に提出され、同委員会できまとめられた評価結果と要改善事項等は事業責任者（＝宮崎大学医学部長）と事業推進委員長に報告される。

↓

事業期間中、**毎年度末に事業推進委員会を定例開催**し、宮崎大学医学部プログラム評価委員会から報告された評価結果と指摘された要改善事項をもとに自己評価を実施し、**必要な事業計画の見直しと改善を行う**。

この他、事業期間内に、宮崎大学医学部は2025年度、東京慈恵会医科大学は2023年度に、それぞれ医学教育評価機構による**医学教育分野別認証評価**を受審する予定で、本事業で確立する教育プログラム・コースの内容も含めた医学教育プログラムの評価を受ける。

③連携体制（連携校との連携体制や役割分担 等）

連携校の東京慈恵会医科大学は、宮崎県高岡町出身で脚気の研究成果から「**ビタミンの父**」と称される高木兼寛を学祖とする。宮崎大学医学部は、看護学科に「**高木兼寛賞**」を制定し、在学中の学業成績が最も優秀で、模範となる卒業生1名を表彰している。また、高木兼寛顕彰会の主催で毎秋開催される「**穆園先生ふるさとの旅**」では、東京慈恵会医科大学及び慈恵柏看護専門学校の学生と宮崎大学医学部の学生が宮崎県高岡町にホームステイし、**町民を交えながら交流**を深めてきた。

令和2年3月3日、東京慈恵会医科大学と宮崎大学は**大学間包括的連携協定**を締結し、令和3年度には医学科5年～6年次：診療参加型臨床実習（クリニカル・クラークシップ）において、**単位互換制度に基づく学生交換実習を開始した**（令和4年度実績＝宮崎大学医学部16名が東京慈恵会医科大学で、東京慈恵会医科大学1名が宮崎大学で実習）。

本事業では、これまでの連携実績をもとに、地方と都心で異なる地域の構造や特性、医療ニーズを互いに補完し合う教育プログラム・コースを確立する。とくに、遠隔・オンラインで医療技術の習得・向上が期待される「**VR・シミュレーション実習**」は、**東京慈恵会医科大学が開発を担当し、宮崎大学や宮崎県内各地の実習施設とオンラインで結びながら実践**をはかる。

④連携体制（都道府県、医療機関等との連携体制や連携の特色 等）

1. 宮崎県、宮崎県教育委員会、宮崎県医師会と宮崎大学は、令和2年10月26日に「宮崎県医師養成・定着推進宣言」を発し、①地域枠の適切な定員設定と医学生教育の充実、②宮崎県キャリア形成プログラムに基づく若手医師の養成・確保、③医師の勤務環境の改善による県内定着促進、に重点をおき、関係機関が一体となった「オールみやざき」の連携体制を強化している。
2. 平成27年度以降、毎年9月に「宮崎大学医学部5年生：未来の医療を語る全員交流会」を開催し、宮崎県知事をはじめ、宮崎県、宮崎県医師会、宮崎県内基幹型臨床研修病院の医師が、5年生全員と一堂に会し、宮崎の地域医療の未来像を語り合う交流をはかっている。
3. 宮崎県及び宮崎県地域医療支援機構、宮崎大学医学部の連携により、毎春、宮崎大学医学部地域枠新入生や自治医科大学新入生を対象に「地域医療オリエンテーション」を開催している。また、宮崎大学医学部地域枠入学生の全員を対象に、毎年2回、全体ミーティングを開催し、キャリア形成プログラムに関する説明や地域医療に関する意見交換、グループワーク等を実施している。
4. 宮崎県地域医療支援機構大学分室は宮崎県医療政策課と毎月一回、定例で連絡協議会を開催している。ここでは宮崎大学医学部キャリアデザインサポート委員長も同席し、必要な案件は同委員会にはかり、教授会の審議・報告に上がるシステムが運用されている。

(2) 取組の継続・事業成果の普及に関する構想等

①取組の継続に関する具体的な構想

1. 本事業が確立する教育プログラム・コースは、宮崎県が第7次医療計画（2018年～2024年3月）に上げた4つの重点課題「①若手医師の減少」「②医師の地域的な偏在」「③特定診療科の医師不足」「④女性医師の就労環境及び医師の勤務負担」の解決をはかる施策であり、第8次医療計画に移行後も継続が求められる。従って「宮崎県医師養成・定着推進宣言」を発した宮崎県、宮崎県教育委員会、宮崎県医師会、宮崎大学を中心に、運営予算の充当を含めた「オールみやざき」の連携体制で、本事業の取り組みを継続していく。
2. 東京慈恵会医科大学との連携は、本事業開始前の令和2年に締結された大学間包括的連携協定に基づいており、本事業で確立された教育プログラム・コースは事業期間が終了した後も、さらなる発展と他の大学・他の地域への応用・展開も視野に入れた取り組みを継続していく。

②事業成果の普及に関する計画

1. 代表校、連携校のホームページで本事業の内容と成果を公開する。
2. 一般公開のシンポジウム、フォーラムを開催し、本事業の内容と成果を紹介する。
3. 日本医学教育学会をはじめ、医学教育に関する学会で本事業の内容と成果を報告する。
4. 「地域医療」「総合診療」「救急医療」「感染症」に関する学会を中心に、医学教育をテーマとするセッション、ワークショップにエントリーし、本事業の内容と成果を報告する。
5. 全国医学部長病院長会議のホームページ等で、本事業の内容や成果を紹介する。

3. 実施計画

(1) 年度別の計画

令和4年度	<p>① 9月：事業担当者による対面協議を実施</p> <p>② 9月：令和4年度「KANEHIROプログラム」説明会を開催（学生・教職員対象）</p> <p>③ 9月：令和4～5年度期：コース選択制診療参加型臨床実習説明会を開催</p> <p>④ 9月：コース選択制診療参加型臨床実習のコース選択希望調査を実施</p> <p>⑤ 10月：令和4年度「KANEHIROプログラム」講座型科目を開講</p> <p>⑥ 10月：オンデマンド教材作成を開始</p> <p>⑦ 10月：VR・シミュレーション実習の開発を開始</p> <p>⑧ 11月：令和4～5年度期：コース選択制診療参加型臨床実習を開始</p> <p>⑨ 11月～3月：事業担当者による教育・実習施設の相互視察を実施</p> <p>⑩ 12月：事業内容や計画の紹介、到達目標の共有、関係機関との連携強化、広報等を目的とする一般公開形式の「キックオフ・シンポジウム」を宮崎で開催</p> <p>⑪ 3月：令和4年度事業の総括及び令和5年度事業計画等に関する事業推進委員会を開催</p>
令和5年度	<p>① 4月：令和5年度「KANEHIROプログラム」説明会を開催</p> <p>② 4月：令和5年度「KANEHIROプログラム」講座型科目を開講</p> <p>③ 9月：令和5～6年度期：コース選択制診療参加型臨床実習説明会を開催</p> <p>④ 9月：コース選択制診療参加型臨床実習のコース選択希望調査を実施</p> <p>⑤ 10月：事業推進と関係機関との連携強化、広報を目的とする「一般公開フォーラム」を宮崎で開催（含・令和4～5年度期：コース選択制診療参加型臨床実習の成果報告）</p> <p>⑥ 10月：VR・シミュレーション実習の試行を開始</p> <p>⑦ 10月：多職種連携に関するオンデマンド教材コンテンツの製作を開始</p> <p>⑧ 11月：令和5～6年度期：コース選択制診療参加型臨床実習を開始</p> <p>⑨ 3月：令和5年度事業の総括及び令和6年度事業計画等に関する事業推進委員会を開催</p>
令和6年度	<p>※毎年度定例として、令和5年度に記載された①～⑤、⑧⑨を実施</p> <p>① 10月：VR・シミュレーション実習の本格実施を開始</p> <p>② 10月：事業推進と関係機関との連携強化、広報を目的とする「一般公開フォーラム」を東京で開催（含・令和5～6年度期：コース選択制診療参加型臨床実習の成果報告）</p> <p>③ 3月：令和4～6年度の事業内容を総括し、これまでの成果に関する調査を実施</p>
令和7年度	<p>※毎年度定例として、令和5年度に記載された①～⑤、⑧⑨を実施</p> <p>① 10月：都市型総合診療＋感染症診療＋救急診療を統合した領域横断型コースを新設</p> <p>② 10月：事業の中間報告と今後の計画を共有する「一般公開シンポジウム」を宮崎で開催（含・プログラムを履修した卒後臨床研修医による発表）</p>
令和8年度	<p>※毎年度定例として、令和5年度に記載された①～⑤、⑧⑨を実施</p> <p>① 10月：事業推進と関係機関との連携強化、広報を目的とする「一般公開フォーラム」を東京で開催（含・令和7～8年度期：コース選択制診療参加型臨床実習の成果報告）</p>
令和9年度	<p>※毎年度定例として、令和5年度に記載された①～⑤、⑧⑨を実施</p> <p>① 10月：事業推進と関係機関との連携強化、広報を目的とする「一般公開フォーラム」を宮崎で開催（含・令和8～9年度期：コース選択制診療参加型臨床実習の成果報告）</p>
令和10年度	<p>※毎年度定例として、令和5年度に記載された①～⑤、⑧⑨を実施</p> <p>① 12月：期間全体の事業内容を総括し、期間内に得られた成果に関する調査を実施（含・プログラムを履修した卒業生の進路調査）</p> <p>② 3月：事業の終了報告と成果発表、取組継続を共有する「公開シンポジウム」を開催（含・プログラムを履修した卒後臨床研修医による発表）</p>

教育プログラム・コースの概要

大学名等	宮崎大学（代表校）、東京慈恵会医科大学（連携校）
教育プログラム・コース名	KANEHIROプログラム
取組む分野	地域医療学、救急・災害医学、感染症学、総合診療医学
対象者	医学部医学科生：宮崎大学医学部の地域枠入学生、東京慈恵会医科大学の地域枠入学生（+地域枠以外の入学生で希望する学生）
対象年次	1年次～6年次
養成すべき人材像	様々な地域の構造や特性を理解し、総合診療や救急医療、感染症をはじめとする新たな時代の多様な医療ニーズに応え、診療にあたる地域を問わずに適切な医療を実践できる医師
科目等詳細	<p><講座型科目></p> <p>1) 地域医療学（宮崎大学医学部地域枠入学生は必修/1単位/1～2年次） 科目担当：宮崎大学医学部 地域医療・総合診療講座 地域医療に求められる使命や課題を学び、地域医療の理想像を描きながら課題の解決策を考える。 ※東京慈恵会医科大学とオンラインで結び、互いに異なる地域の構造や特性を比較、共有しながら学ぶ機会を導入する計画。例）新たな時代の都市型地域医療＝「都心のアパートで独り暮らしをする高齢者のケア」</p> <p><実習型科目></p> <p>1) 早期地域医療実習（宮崎大学医学部地域枠入学生は必修/1単位/2年次） 実習担当：宮崎大学医学部 地域医療・総合診療講座 地域医療を担う医療機関における実習を早期に体験し、座学の「地域医療学」で学んだ内容をもとに、プライマリ・ケア、家庭医療、総合診療の役割等を実習を通じて実践的に学ぶ。 ※東京慈恵会医科大学の地域枠入学生は、選択科目「プライマリケア・選択学外臨床実習」で単位互換制に基づく実習として、宮崎での実習に参加することが可能。</p> <p>2) コース選択制診療参加型臨床実習（クリニカル・クラークシップ） （宮崎大学医学部の地域枠入学生と東京慈恵会医科大学の地域枠入学生は必修/4～12単位/5～6年次） 宮崎大学と東京慈恵会医科大学の地域枠入学生は、診療参加型臨床実習（クリニカル・クラークシップ）で<KANEHIROプログラム>に設定された「コース①～⑥」のいずれかを選択して履修する。</p> <p>①地域包括ケア実践コース＝4週間（4単位）□ □コース開発・編成及び指導担当＝宮崎大学医学部 地域医療・総合診療講座□ 宮崎県各地に用意された実習施設（35～40施設）から選択し、施設が位置する地域の構造や特性を理解し、保健行政機関との連携を含めた地域包括ケアについて、実習を通じて学ぶ。</p> <p>②長期滞在型地域包括ケア実践コース＝12週間（12単位）□ □コース開発・編成及び指導担当＝宮崎大学医学部 地域医療・総合診療講座□ 都農町国民健康保険病院（宮崎県児湯郡）に12週間、長期滞在しながら、都農町の地域構造や特性を深く理解し、保健行政機関との連携を含めた地域包括ケアについて、実習を通じて学ぶ。</p> <p>③地域連携型救急診療コース＝4週間（4単位）□ □コース開発・編成及び指導担当＝宮崎大学医学部 病態解析医学講座 救急・災害医学分野 東西70km、南北160kmにわたる広大な面積を有し、その76%を森林が占める宮崎県の特長に応じ、保健行政機関との連携やドクターヘリの運用を含めた救急診療について、実習を通じて学ぶ。</p> <p>※宮崎大学で実施される①～③のコースは、とくに東京慈恵会医科大学の地域枠入学生以外を対象に、プログラム全体の履修を問わない積極的な選択を促し、地方の特性に応じた医療ニーズを体感しながら学ぶ機会を供与することで、医師の不足や偏在を抱える地方の地域医療に従事する将来のキャリアイメージを涵養する。</p> <p>④都市型総合診療コース＝4週間（4単位）□ コース開発・編成及び指導担当＝東京慈恵会医科大学 内科学講座（総合診療内科） 地域医療における新たな時代の多様なニーズへの対応力を涵養するため、都心に位置する大学病院で、都市部に多い疾患や地方とは異なる患者の特性に応じた総合診療について、実習を通じて学ぶ。</p> <p>⑤都市型感染症診療コース＝4週間（4単位）□ コース開発・編成及び指導担当＝東京慈恵会医科大学附属病院 感染症科 地域医療における新たな時代の多様なニーズへの対応力を涵養するため、都心に位置する大学病院で、都市部に多い感染症や地方とは異なる患者の特性に応じた感染症診療について、実習を通じて学ぶ。</p> <p>⑥都市型救急診療コース＝4週間（4単位）□ コース開発・編成及び指導担当＝東京慈恵会医科大学 救急医学講座 地域医療における新たな時代の多様なニーズへの対応力を涵養するため、都心に位置する大学病院で、都市部の地域構造や地方とは異なる医療体系に基づいた救急診療について、実習を通じて学ぶ。</p> <p>※事業期間中、④～⑥を有機的に統合した領域横断的なコース⑦の新設を計画している。</p>

	<p>3) VR・シミュレーション実習 実習担当＝東京慈恵会医科大学 救急医学講座／宮崎大学医学部 地域医療・総合診療講座 実習や診療にあたる地域を問わず実際の診療に近い状況での学習が可能である。また、遠隔・オンラインで次世代教育ツールのVirtual Reality (VR) を含むシミュレーション実習を開発し、双方向・リアルタイム形式で実施する。</p> <p><セミナー形式> 1) セミナー総合診療「あすなろ塾」 セミナー担当：東京慈恵会医科大学 内科学講座（総合診療内科） 地域の特性や多様なニーズに応える新たな時代の総合診療について、セミナー形式で理解を深める。</p> <p>2) 多職種連携セミナー セミナー担当＝宮崎大学医学部 地域医療・総合診療講座／東京慈恵会医科大学 教育センター 地域の特性や多様なニーズに応える新たな時代の地域医療に欠かせない多職種連携について、セミナー形式で理解を深める。</p> <p>※事業期間中にセミナーを正規課程の一部に加える計画の他、デジタルデータを活用した多職種連携教育コンテンツの開発を予定している。</p>																																																																								
<p>教育内容の特色等 （新規性・独創性）</p>	<p>1. 地域医療、救急医療、総合診療、感染症に重点をおいた6つの専門コースを新設し、地方の宮崎大学と都市部の東京慈恵会医科大学で異なる地域の構造や特性、医療ニーズを互いに補完しながら、単位互換制の交換実習を展開する診療参加型臨床実習は、高い新規性と独創性を有する。</p> <p>2. 宮崎大学と宮崎県児湯郡都農町が締結した「まちづくり団体」に関する協定に基づく長期滞在型地域包括ケア実践コースは、3ヶ月間（12週間）にわたって都農町国民健康保険病院を拠点に地域包括ケアを学ぶ、全国でも先駆的な取り組みである。</p> <p>3. 講座型科目、実習型科目、セミナー形式の教育内容をベースにした新たなオンデマンド教材を製作し、時間や場所を限定されず、繰り返し学習できる受講環境を整備する取り組みは新規性を有する。</p> <p>4. 遠隔・オンラインによるVR・シミュレーション学習は、大学間の距離に関わらず実施することが可能であり、都市部で経験が少ない地域医療現場を再現することや、逆に地域で経験が困難な症例を経験することが可能となり、新しい大学間連携教育プログラムのモデルとなり得る。またRapid Respons Systemトレーニング等の新しいシミュレーション教育プログラムを地域医療機関にも展開することは、高い新規性と独創性を有する。</p>																																																																								
<p>指導体制</p>	<p>事業推進プロジェクトリーダー（兼・事業推進委員長）及び教育プログラム・コースの統括責任者を宮崎大学医学部副学部長（教務担当）が務め、事業推進プロジェクトサブリーダー（兼・事業推進副委員長）及び教育プログラム・コース開発・編成担当コーディネーターとして、代表校と連携校に各1名の教員を配置する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p><講義型科目> 講義を担当する講座の教員を中心に、講義の内容に関連する講座の教員又は非常勤講師が指導。</p> <p><実習型科目> 実習を担当する講座の教員を中心に、実習の内容に関連する講座の教員又は非常勤講師が指導。</p> <p>[コース選択制診療参加型臨床実習（クリニカル・クラークシップ）] プログラムを構成する各コースの開発・編成を担当するコースディレクターとして、各コースに1名の教員を配置し、コースディレクター及びコース開発・編成を担当する講座・診療科の教員が中心となって指導にあたる。</p> <p><セミナー形式> 担当する講座の教員を中心に、セミナーの内容に関連する講座の教員又は非常勤講師が指導。</p>																																																																								
<p>開始時期</p>	<p>令和4年10月</p>																																																																								
<p>養成目標人数</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者 (年次ごとに記載)</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> <th>令和8年度</th> <th>令和9年度</th> <th>令和10年度</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年次</td> <td>0</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>240</td> </tr> <tr> <td>2年次</td> <td>0</td> <td>33</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>233</td> </tr> <tr> <td>3年次</td> <td>0</td> <td>16</td> <td>33</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>209</td> </tr> <tr> <td>4年次</td> <td>0</td> <td>26</td> <td>16</td> <td>33</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>195</td> </tr> <tr> <td>5年次</td> <td>18</td> <td>21</td> <td>26</td> <td>16</td> <td>33</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>194</td> </tr> <tr> <td>6年次</td> <td>0</td> <td>22</td> <td>25</td> <td>30</td> <td>20</td> <td>22</td> <td>40</td> <td>159</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>18</td> <td>158</td> <td>180</td> <td>199</td> <td>213</td> <td>222</td> <td>240</td> <td>1,230</td> </tr> </tbody> </table>	対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計	1年次	0	40	40	40	40	40	40	240	2年次	0	33	40	40	40	40	40	233	3年次	0	16	33	40	40	40	40	209	4年次	0	26	16	33	40	40	40	195	5年次	18	21	26	16	33	40	40	194	6年次	0	22	25	30	20	22	40	159	計	18	158	180	199	213	222	240	1,230
対象者 (年次ごとに記載)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	計																																																																	
1年次	0	40	40	40	40	40	40	240																																																																	
2年次	0	33	40	40	40	40	40	233																																																																	
3年次	0	16	33	40	40	40	40	209																																																																	
4年次	0	26	16	33	40	40	40	195																																																																	
5年次	18	21	26	16	33	40	40	194																																																																	
6年次	0	22	25	30	20	22	40	159																																																																	
計	18	158	180	199	213	222	240	1,230																																																																	

※教育プログラム・コースごとに作成して下さい。
※各欄の行の高さは自由に変えて結構です。横幅は変えないでください。